

基本財産

金員	千貳百七拾圓參拾陸圓	千三拾參圓〇九錢七厘	八百五十九圓四拾六錢	六百參拾五圓九拾九錢	四百四拾參圓九拾陸錢
土地	二十町二反六步	二十町二反六步	二十町二反六步	二十町二反六步	二十町二反六步
建物	棟 八	棟 八	棟 八	棟 八	棟 八

車輛

牛馬	六十一輛	七十三輛	七十三輛	七十九輛	六十輛
人力荷車	六輛	八輛	八輛	十輛	十一輛
乘用馬車	十三輛	十二輛	十一輛	十一輛	十輛
人力車	二輛	四輛	五輛	六輛	八輛

備考 物産ノ累年比較ハ確タル馮ル處ナキヲ以テ之レヲ掲ス

將來ノ目的方針

本村が以テ富有ト稱スヘカラサルハ固ヨリ論ヲ待タサル所ニシテ今此調査ノ結果壹戸參拾八圓五拾五錢壹厘ノ餘力アルニ似タルト雖是レ一二富豪家ヨリ數字上平等額ヲ受ケ然ルモノナレハ其一般ノ内容ハ實ニ言ヘカラザル窮境ニアリテ非常ノ貧村ト稱スヘキナリ今ニシテ之レカ救濟策ヲ講スルニ非レハ數年ヲ出テスシテ全村離散ノ悲運ニ遭遇スヘキハ理數ノ免レサル所ナリ畢竟本村ガ斯ノ如キ窮境ニ沈淪シツ、アル所以ノモノハ從來獨リ普通農作物ニノミ依頼シテ他ニ副産ノ以テ之レヲ補足スルモノ無キニ因ルハ明瞭等フヘカラサルノ實態ナリト然レモ本村ハ元來耕地ノ割合ニ人口少ク農工雇人ハ多ク本縣天草郡及大分縣鶴崎地方ヨリ仰キ來

リシニ兵員徵召海外出稼等ノ影響全ク其口ヲ杜塞シ人口耕地ノ不均衡益々甚シク知地ノ一部ハ爲メニ荒蕪ヲ見ルニ至レリ正ニ斯ノ如キ情況ナレバ副産物トシテモ多岐ニ亘ルノ餘力ナキノミナラズ本産タル普通農事改良上ノ如キモ止ムヲ得ス或ル程度ニ止メ漸々ニ其完整ヲ期セザルヘカラス因テ茲ニ普通農産物ニ在ツテハ米麥玉蜀黍ニ就キ多少ノ改良ヲ加ヘ副産物トシテハ蠶業、畜産業之レニ加ルニ林業ヲ以テシ此三業ニ依テ非運ヲ挽回シ進テ富力ノ増加ヲ謀ルノ外未タ良策ヲ得サルナリ乃チ左ニ其概要ヲ摘示セン

米

一穗撰ヲ爲ス

稻子ノ良否カ取得上ニ及ス所ノ影響多大ニシテ毎年耕地全部ノ下稻ヲ撰ムノ得策タルハ言ヲ待スト雖モ本村人口ト耕地ノ割合ハ之レヲ縣下ノ模範トシテ調査シタル彼ノ田原村ニ比スルモ殆ント一倍ノ田地ヲ耕ストナリ隨テ其餘力ニ乏シケレバ暫ク撰撰法ヲ用ヒ充分撰選ニ注意スヘシ尤其餘力アルモノハ務メテ撰撰法ヲ執ルヲ要ス

一植挿ヲ修整ス

定規植ノ施肥除草ニ便ニ空氣ヲ流通シテ天熱ヲ引クニ宜シクシテ直接ニ肥料ヲ溶解シ間接ニ害虫ノ發生ヲ防クノ助アリテ得益大ナルハ言ヲ待タサレモ是又前項ニ述カ如キ狀態ニシテ若シ多數ノ人手ヲ要センカ挿挿ノ時季ヲ失スルノ恐アレバ從來ノ回植千鳥植等ノ舊習ヲ一洗シ爲テノ播挿ヲ停止シ務メテ定規植ニ近ラシムルノ方法ヲ執ルベシ尤餘力アルモノハ可成的定規植ヲ爲スト勿論ナリトス

一穂量ヲ減ス

往時ニ在ツテハ一反歩ニ對シ一斗ノ稻子ヲ下ロスコ殆ント全都ヲ通シテノ習慣ニシテ隣村中猶舊慣ニ依ルモノ少ナカラスト雖モ本村ニ在テハ近時漸々其量ヲ減シ五升乃至八升ノ間ニ於テ下稻シ來ルヲ以テ今最少ノ五升ヲ以テ適宜ト假定スルモハ七八升ヨリ多少ノ餘剩ヲ生ス可シ尤四升時ハ今猶試驗中ニ風スレハ未タ果シテ此地ニ適スルヤハ確認シ難シ幸ニ好結果ヲ得ハ隨テ一層ノ餘剩ヲ見ルヘキナリ

其他肥料上ニ就テモ改良ヲ要スルコト少カラスト雖モ暫ク村農會ノ講習ニ讓リテ之レヲ略ス